

松 山 大 学 論 集
第 28 卷 第 1 号 抜 刷
2 0 1 6 年 4 月 発 行

初年次教育における社会人セミナーの効果

熊 谷 太 郎
安 田 俊 一
松 井 名 津

初年次教育における社会人セミナーの効果*

熊 谷 太 郎[†]
安 田 俊 一[†]
松 井 名 津[†]

1 はじめに

文科省による「平成 27 年度学校基本調査」によると、大学・短期大学への進学率は 54.6%，大学学部に限って言えば 48.9%とどちらも過去最高を記録した。一方、18 歳人口は 119 万 6 千人と 120 万人を割り込んでいる（総務省統計局，平成 26 年 10 月 1 日時点）。

大学入学時の年齢人口が縮小する中での進学率のこのような上昇が，これまで大学が想定していなかった様々な背景を持った学生の入学をもたらしており，大学教育のありようが従来までと異なってきていることは周知の事実である。

こうした環境の変化において、「大学でやりたいこと・学びたいこと」などの「進学動機」を持たずに入学してきた学生は，ともすれば漫然と大学生活をおくり，そのまま卒業しがちである。そのような学生が多数になってきていることは教育現場での実感として大学教職員の中で共有されていると思われる。

入学した学生が「意欲」を持って大学生活を送り，卒業していくためには大学教育の中でなんらかの対応が必要になってきている。こうした問題意識から，本学経済学部では 2008 年以降，新入生の大学生活への意欲を高めるプロ

* 本論文は 2014 年度松山大学教育研究助成制度の成果論文である。

† 松山大学経済学部教授

グラムを実施している。プログラムの目的は新入生の「仲間作り」を早期に実施することで高校から大学への接続で大きな焦点となる「大学での居場所」を確立することであり、また、とすれば無目的に過ごしがちである大学生活を「キャリアの一段階」として認識し、2年次以降の学習へのモチベーションを高めることである。入学直後に「居場所・仲間」を作ることで大学への定着を促し、そうして作られた「仲間（基礎演習）」単位で卒業後も含めた長期的なライフプランを意識するようにこのプログラムは設計されている。

近年こうした「意欲付け」プログラムは各大学で様々な方法で試行されている。その背景には上述のように少子化の進行と大学進学率の高まりから、従来大学が前提としていない様々な学生が入学して来ている実態がある。

一方、経済界からは大卒労働者の質が問題にされてきており、その帰結の一つが2008年に経産省が策定した「社会人基礎力」であり、中教審による「質的転換答申¹⁾」であろう。経済界では現在の大学教育を経て社会に出た学生の能力が足りないため大学での学びについて疑念を持っており、大学教育の内容について大学へ変更を求めているように思われる。

こうした社会的要請はともかくとしても、実際に大学生が卒業後の長い職業人生を送るに当たって自分が大学で獲得した能力を意識し、それを社会で十分に発揮できるように教育を行うことは大学の責任でもあろう。

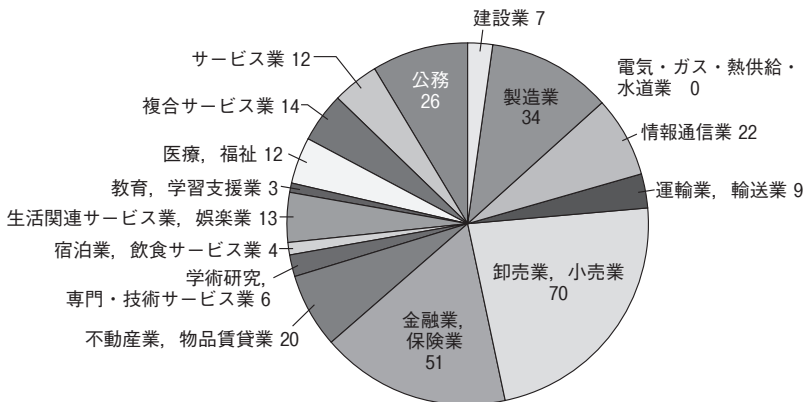
しかしながら、従前に比べて多様な動機をもった学生が入学してきていることを考えると、大学に入学したからといって将来の職業を意識しながら大学での学修を行う学生はそれほど多くない。医学や薬学といった比較的「職業」に直結している学部であれば、学修内容と将来の職業が結びつきやすく、学生の学びへのモチベーションは維持されるであろうが、文系、特に経済学部はそうではない。

1) 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」2012年8月

これまで「経済学部はつぶしがきく」と言われてきたが、この表現は裏を返せば「経済学部卒業でなければ就くことのできない職業はない」ということを意味する。図1は2014年度卒業生の就職先業種であるが、やや「卸・小売業」「金融業」が多いものの特にこれといった特徴はなく、各業種にまんべんなく就職していることがわかる。こうした実態からも、経済学部の学部特性として何らかの業種と密接な関係があるわけではなく、学生が自分の将来の職業を意識しながら履修を組み立てたり、自分の学習内容から就職先を選んだ就職活動をしたりすることはほとんどないと考えられる。

これはなにも本学の経済学部に限ったことではなく、上述のように大卒労働者の質に対して経済界から要望が出ているように、一般的に学部での専門的な学修経験が社会に出てから積極的に活かされている例は現在では少ないと認識されており、大学側の取り組みが要望されている。そのため例えば慶應義塾大学元塾長安西祐一郎氏とベネッセコーポレーションが2010年から開始した「Future Skills Project (FSP) 研究会」が取り組んでいるように、入学直後に企業と連携して実践的な課題に挑戦し、その活動から今後の大学での学びを意識するようなプログラムが実施されている。

図1 2014年度経済学部卒業生の進路 (人)



しかしながら、こうした先進的な取り組みを現時点の本学経済学部で実施するには人的・資金的能力がない。そのため、我々はもう少し手前の「世の中にはさまざまなキャリアパスがある」という事実を学生に提示し、それを踏まえた上で今後の学生生活を送ることができるきっかけ作りを目的としたプログラムを設計した。

「仲間づくり、自己理解」を目的とした4月実施のプログラムについては、それが2日間という短期間であっても、社会的スキル・自尊感情・他者理解等の側面で積極的な効果があることを我々は実証してきている²⁾

本稿では後期に実施している「社会人セミナー」が受講者のキャリア意識に与える影響について考察する。このテーマについては2013年初年次教育学会で最初の試行的な分析を発表した³⁾その時点では、アンケートの実施時期の問題があったことと、分析内容が概要的なものであったことから2014年度に実施したアンケートを基に新に分析を行う。

以下、本稿では「社会人セミナー」についてやや詳しく紹介し、アンケートの実施方法を説明した後、結果についての分析を行う。

2 社会人セミナー

本学経済学部で実施している「社会人セミナー」は、社会人から具体的な職業生活・大学での経験等の話をしてもらうことで、キャリアパスの複雑性・多様性への意識を高め、人生の中の1ステップとして大学生活を考えることを促し、大学生活全体の目的設定や2年次以降への大学生活に対する意欲付けをねらったプログラムである。

上で紹介した「FSP」のような取り組みは、受講希望者から受講にあたってのレポートを事前に提出させ、その中から優れた学生を選抜して行われている。したがってそうしたプログラムの受講者は参加の時点から高い意識を持つ

2) 松井・熊谷・安田(2010, 2012, 2015), 松井・岩村・熊谷・安田(2014)

3) 松井・熊谷・安田(2013)

ていると考えられる。そのため協力企業から出された課題に対するかなりハードな要求にも対応できるし、その経験の中でその後の大学教育について目的意識的に取り組むことができると思われる。

しかしながら本学経済学部が直面している学生は入学直後に全員が「高い意識」を持っているわけではない。また、選ばれた少数の学生をより伸ばしていくことも重要ではあるが、我々はより多くの「普通の」学生の意識を底上げすることを目的とした。

そこで1年次必修科目である「一般基礎演習⁴⁾」を対象にプログラムを提供している。一般基礎演習は隔週金曜日を基本として開講されているので、演習がない金曜日は1年次生には授業がない(裏時間)。そこでその時間を利用してセミナーを開催する。

セミナーの実施概略は以下の通りである。

講師の提示とセミナー参加者の募集 セミナーの講師は、世話役が依頼した社会人である。例年12名から14名程度の社会人に依頼して、90分をコマ分で話をしてもらう。セミナーの実施前に講師からテーマとプロフィールを提出していただき、一般基礎演習担当者に提示する。

一般基礎演習担当者は、自分の演習クラスを参加させたい講師、あるいは演習クラスの学生が聴きたいと希望した講師のクラスへ参加する。

1セミナーあたりの参加人数はできるだけ40名以下になるように調整する。10月半ばから12月初旬にかけて1回2名-4名の講師によるセミナーを開催するので、全部で4日程で開催している。そこで基礎演習によっては最大4回セミナーを受講するチャンスがある。受講回数は基礎演習クラスによって異なるが、できるだけ複数回のセミナー受講を可能にすることで「多様なキャリアパス」に触れる機会を提供している。

4) 1学年約400名を20名程度の小クラスに分けた演習科目。本学専任教員が担当として主として大学への学びについての導入教育を行う。

講師の選定にあたっては、会社社長など「多くの学生には縁がない」人をできるだけ避け、多くの学生が自分の将来図の中で「自分もそうなるかもしれない」と想像できるような人を対象にしている。これはこのセミナーの目的があくまでも「エライ人の話から何かをつかみ取る」のではなく、学生が「実際に自分にもありうる」と思うような人から話を聴くことで、リアルな就業をイメージすることにあるからだ。そこで、講師は、若手銀行員、公務員、NPO 職員、自営業者（製造業・サービス業）など、多様な職種を保つように工夫している。

事前学習 講師から提出していただいたテーマとプロフィールには「セミナーで伝えたいこと」「事前リサーチ情報」等が記載されている（資料1）。また、参加基礎演習クラスの学生には「事前学習シート」（資料2）を配布し、プロフィールシートにある情報を利用して予め講師自身と講師の仕事に関することを事前学習するよう勧めている。

セミナー当日 セミナー当日には講師が用意した資料と共に学生に「メモ用紙」を配布して、終了後に感想文を記入できるようにしている。なお、当日の進行は「アテンダント」と呼ばれる学生（上級生が中心）が行う。「アテンダント」は共通教育科目「ファシリテーション養成講座」「リーダー養成講座」を受講した学生からボランティアを募り、当日の講師の案内からセミナーの運営、セミナー修了後のレポート回収等の実質的な運用を担当している。

事後学習 基礎演習クラスによって取扱は異なるが、セミナー修了後のレポートはコピーを講師に送付するだけでなく、一般基礎演習クラスの担当教員から学生に返却する。そのタイミングを使って、セミナーで学んだことなどを基礎演習の時間に発表するなどの利用を勧めている。

なお、経済学部的一般基礎演習は例年 22-24 クラスが開講されるが、そのうち本セミナーに参加しているクラスは 13-16 クラスである。本稿で分析対象とする 2014 年度には 13 クラスが参加した。

以下の分析では、参加するクラス全員にセミナー開始前に行う「事前アンケート」、各セミナー終了時に行う「事後アンケート」の 2 種類のアンケートを使用する。事後アンケートは各セミナーごとに行うため、学生によっては複数回（最高 4 回）の事後アンケートに答えることになる。

3 調査概要と調査結果

本研究では、2014 年後期に実施された「社会人セミナー」について、初年次教育としてどのような効果が観られるのかを検証することを目的とし、受講前後に質問紙調査を行った。対象とした項目は、坂柳（1996）によって開発された、人生キャリア・レディネス尺度（以下、人生キャリアと表記する。）と職業キャリア・レディネス尺度（以下、職業キャリアと表記する。）である。それぞれの尺度について、表 1 のように、関心性、自律性、計画性の 3 つの下位尺度を設定している。

各領域について、「関心性」については自己のキャリアについて積極的な関心を持っているか、「自律性」については自己のキャリアへの取り組み姿勢が自律的であるか、そして「計画性」については将来展望を持ち自己のキャリアに計画的であるかを意味している。

下位尺度ごとに、信頼性を確認するために事前調査と事後調査別に α 係数

表 1 キャリア・レディネス尺度の下位尺度

	人生キャリア	職業キャリア
キャリア関心性	人生キャリア関心性	職業キャリア関心性
キャリア自律性	人生キャリア自律性	職業キャリア自律性
キャリア計画性	人生キャリア計画性	職業キャリア計画性

表2 2014年度社会人セミナーの記述統計

性別	最初の一步	受講回数
男性 92	受講 77	1回 68 3回 23
女性 40	非受講 55	2回 32 4回 9

(注)「最初の一步」とは、「松大生最初の一步」の略記である。

を算出した。その結果、職業キャリア自律性(事後)と職業キャリア計画性(事後)はそれぞれ.685と.656で、信頼係数はそれほど高くなかったものの、その他の領域については.757～.830の範囲に分布しており、内的一貫性はかなり高かった。職業キャリアについては、1年次対象であることを考慮すると、この程度の内的一貫性でも分析可能と判断できるため、今回は個別項目の削除なしに分析を進めることとした。

調査対象は、松山大学経済学部的一般基礎演習を受講している1年次生のうち、「社会人セミナー」の受講を希望した13クラスの学生である。回答は無記名としているが、前後の調査票で同一人物と特定するために、学籍番号を記入させた⁵⁾13クラス中11クラスからアンケートを回収することができた。2014年度社会人セミナーにおける記述統計は表2のようにまとめられる。

松山大学経済学部生のうち、約3割が女子学生であるが、今回の受講生は学部全体の比率と比較すると女子学生の受講比率がやや大きくなっており、その比率は45%程度である。受講学生により、社会人セミナーの受講数は異なっている。約半数の学生が複数の社会人の話を聞いている。最も多い学生は4回のセミナーを受講しており、合計で4名の社会人の話を聞いている。

一般基礎演習の一部のクラスは4月に『松大生最初の一步』という、新入生向けのプログラムを受講している。2014年度については、16クラスが受講している。そのうち、2014年度社会人セミナーには77名の学生が参加している。

5) 質問項目の詳細については、章末の資料に記載する。

3.1 キャリア・レディネス尺度の相関関係

最初に、それぞれのキャリア・レディネス尺度間にどのような相関関係があるのかを明らかにする。特に、事前と事後で尺度間にどのような相関があるのかを明確にし、全体的な特性、そして性別、受講回数別、「最初の一步」受講経験別にその特徴を浮き彫りにする。

3.1.1 全体の相関関係

表3と表4はそれぞれ、人生キャリアと職業キャリアにおける各領域間の相関係数を表している。人生キャリアについては、すべての領域において正で有意な相関が認められる。最初に注目したい点は、表3の人生キャリアにおける自己相関である。正の相関はあるものの、非常に弱い。むしろ、他の領域との相関のほうが強い。特に、人生自律性事前と人生関心性事後の相関が強い。キャリアに対する取り組みが自律的な学生は関心がよりいっそう高まるのだろう。また、事前の自律性が高い学生は計画性についても事後的に高まる傾向にある。

表3 人生キャリア相関関係

	人生関心性事後	人生自律性事後	人生計画性事後
人生関心性事前	.293**	.307**	.283**
人生自律性事前	.655**	.293**	.478**
人生計画性事前	.430**	.223**	.265**

** : $p < .01$

表4 職業キャリア相関関係

	職業関心性事後	職業自律性事後	職業計画性事後
職業関心性事前	.548**	.365**	.264**
職業自律性事前	.233**	.385**	.048
職業計画性事前	.253**	.230*	.615**

** : $p < .01$, * : $p < .05$

職業キャリアについては、人生キャリアと異なり、自己相関は自律性を除くと比較的高い。事前に関心性の高い学生は事後的にも関心性が高まり、また事前に計画性が高い学生は事後的にも計画性は高まる傾向にある。人生キャリアと異なり、事前に自律性が高くとも、事後的な関心性や自律性と非常に弱い相関しかなく、また事後的な計画性については相関があるとはいえない。これは、人生については比較的自分に置き換えて想像することが容易であるが、働くことについて想像したり、イメージを膨らませたりすることが難しく、結果として職業については事前の自律性とその他の事後の領域の相関が弱くなっている可能性がある。

3.1.2 性別相関関係

表5と表6は男女別の人生キャリアと職業キャリアにおける各領域間の相関係数をまとめている。表の上段は男性、下段は女性の相関係数を表している。相関関係について、男女でそれぞれ特徴がある。

自己相関について、男女いずれも正の相関が観られるが、人生関心性と人生計画性については、女性のほうが強い正の相関がある。人生関心性事前と人生計画性事後と人生計画性事前と人生関心性事後について、男性よりも女性のほうが強い正の相関があることが表からわかる。むしろ、男性には相関が観られない。一方、人生自律性事前と人生関心性事後・人生計画性事後については男性のみに非常に弱いものの相関関係が観られる。

職業キャリアについても、人生キャリアと同様の傾向が観察される。男性については、相関関係があっても女性と比較すると弱くなっている。女性のほうが社会人の話の本質を比較的しっかりと捉えており、自分の中でうまく理解している可能性がある。いわゆる、女性のほうが「腑に落ちた」状態なのかもしれない。これは、日常的に女性のほうがキャリアについて考える機会がある可能性があることを窺わせる。

表5 人生キャリア相関関係 (性別)

	人生関心性事後	人生自律性事後	人生計画性事後
人生関心性事前	.353** .682**	.316** .275	.105 .618**
人生自律性事前	.257* .321	.418** .461**	.246* .308
人生計画性事前	.108 .685**	.143 .390**	.595** .825**

** : $p < .01$, * : $p < .05$, 上段は男性, 下段は女性

表6 職業キャリア相関関係 (性別)

	職業関心性事後	職業自律性事後	職業計画性事後
職業関心性事前	.410** .795**	.359** .383*	.092 .607**
職業自律性事前	.161 .389**	.288** .688**	-.034 .236
職業計画性事前	.087 .600**	.157 .455**	.538** .786**

** : $p < .01$, * : $p < .05$, 上段は男性, 下段は女性

3.1.3 受講回数別相関係数

表7と表8は受講回数別の人生キャリアと職業キャリアにおける各領域間の相関係数をまとめている。4回目を除いて、人生計画性事前と人生計画性事後に強い正の相関があることがわかる。その他については、例外はあるものの、受講回数が少ないほど各領域において、正の相関が観測される。逆に受講回数が3回を超えると、ほとんど相関があるとはいえない。

一方、職業キャリアについては人生キャリアと異なり、受講回数を重ねても正の相関関係が観察される。特に、各領域の自己相関において、前後で比較的強い正の相関があることがわかる。大学に入学して1年にも満たない状態で、働くことをイメージすることは容易ではないと推測できる。しかしながら、社会人の話を複数回聞くことで、働くイメージが湧いたり、働くことの楽しさ・

表7 人生キャリア相関関係 (受講回数別)

	人生関心性事後	人生自律性事後	人生計画性事後
人生関心性事前	.444**	.314*	.249
	.662**	.494**	.654**
	.411	.054	.115
	.593	.430	.385
人生自律性事前	.390**	.531**	.323*
	.455*	.461*	.473**
	-.170	.062	-.137
	.166	.551	.523
人生計画性事前	.292*	.218	.730**
	.427*	.425*	.488**
	.205	-.109	.747**
	.222	.369	.436

** : $p < .01$, * : $p < .05$

1段目は1回, 2段目は2回, 3段目は3回, 4段目は4回

表8 職業キャリア相関関係 (受講回数別)

	職業関心性事後	職業自律性事後	職業計画性事後
職業関心性事前	.463**	.404**	.119
	.749**	.592**	.563**
	.517*	-.052	.280
	.834**	.848**	.531
職業自律性事前	.262*	.412**	-.013
	.368*	.331**	.450*
	-.043	.301	-.219
	.726*	.889**	.619
職業計画性事前	.255*	.220	.685**
	.454*	.618**	.422*
	.060	-.206	.582**
	.235	.113	.725*

** : $p < .01$, * : $p < .05$

1段目は1回, 2段目は2回, 3段目は3回, 4段目は4回

喜びを感じたりすることで、回数を重ねても比較的強い正の相関を観察できている可能性がある。

3.1.4 「最初の一步」受講経験別相関関係

表9と表10は「最初の一步」受講経験別の人生キャリアと職業キャリアにおける各領域間の相関係数をまとめている。各領域における前後の自己相関は、人生関心性を除いて、非受講のほうが強くなっている。人生自律性事前と人生関心性事後、人生関心性事前と人生自律性事後については、「最初の一步」受講者のほうが比較的強い相関関係があるといえる。

職業キャリアについてはより顕著な違いがある。受講者よりも非受講者のほうが比較的強い正の相関がある。

表9 人生キャリア相関関係（「最初の一步」受講経験別）

	人生関心性事後	人生自律性事後	人生計画性事後
人生関心性事前	.526** .366*	.226 .379**	.313** .218
人生自律性事前	.253* .311*	.340** .564**	.258* .275
人生計画性事前	.280* .305*	.241* .140	.610** .759**

** : $p < .01$, * : $p < .05$, 上段は受講, 下段は非受講

表10 職業キャリア相関関係（「最初の一步」受講経験別）

	職業関心性事後	職業自律性事後	職業計画性事後
職業関心性事前	.410** .795**	.359** .383*	.092 .607**
職業自律性事前	.161 .389**	.288** .688**	-.034 .236
職業計画性事前	.087 .600**	.157 .455**	.538** .786**

** : $p < .01$, * : $p < .05$, 上段は受講, 下段は非受講

3.2 人生キャリアおよび職業キャリアの分析結果

次に、社会人セミナー受講前後の効果を概観するために、人生キャリアと職業キャリアの各項目を合計し、対応のある t 検定を行った結果を示す。また、性差、出席回数による差、「最初の一歩」の受講・非受講の差も合わせて考察する。

全体として人生キャリア ($t(117) = -3.866, p < .01$) と職業キャリア ($t(119) = -2.606, p < .05$) とともに、受講後のほうが有意に平均値が高くなっている(表11)。これは、おおむね社会人セミナーを受講することによって、自身の人生キャリアおよび職業キャリアを考える効果が得られると言えるだろう。ただし、1年次生対象ということで、職業キャリアよりも人生キャリアのほうが変化が大きくなっている。

表11では性別、受講回数別、そして「最初の一歩」受講経験別の結果も同時に示している。男性については、人生キャリア ($t(81) = -3.869, p < .01$) と職業キャリア ($t(85) = -2.483, p < .05$) いずれも有意に受講後のほうが平均値が高い。一方、女性については人生キャリア ($t(35) = -1.052, n. s.$) と

表11 各尺度における事前・事後の差の平均値と標準偏差

		人生キャリア		職業キャリア	
		平均値の差	標準偏差	平均値の差	標準偏差
性別	全体	-3.95**	11.096	-2.77*	11.631
	男性	-4.93**	11.531	-3.37*	12.595
	女性	-1.72	9.826	-1.24	8.711
受講回数	1回	-3.66*	10.3384	-2.40	10.541
	2回	-3.63*	9.438	-2.50	13.109
	3回	-4.61	11.927	-3.14	10.910
	4回	-5.11	18.658	-5.22	16.246
最初の一歩	受講	-3.51**	10.928	-2.16	12.564
	非受講	-4.62**	11.431	-3.62*	10.248

** : $p < .01$, * : $p < .05$

職業キャリア ($t(33) = -.827, n.s.$) のいずれも平均値の差は有意ではなかった。人生キャリアおよび職業キャリアは、大学生が自分のこれからの人生や生き方、あるいは職業選択や就職などについて、どの程度成熟した考え方を持っているかを測定するために開発された成熟尺度である。この意味から、女性よりも男性のほうが、社会人の話に感化されやすい傾向があるのかもしれない。ただ、気をつけなければならないのは、固定観念がある可能性についてである。「男性は外で働き、女性は家庭を守る」といった高度成長期には中心だった思考が今の大学生にも残っているとしたら、これらのキャリア尺度に影響が出てくることが予測される。また、人生キャリアと職業キャリアの合計点では有意な差は観察されなかったものの、個別の項目については有意な差が観察されるかもしれない。そのため、個別項目に対する考察を後に行う。

受講回数別に見ると、職業キャリアについては有意な差は観察されなかったが、人生キャリアについては受講回数が1回 ($t(55) = -2.650, p < .05$) と2回 ($t(29) = -2.109, p < .05$) の場合は有意な差が得られた。同じ社会人の話を聞くわけではないが、受講回数が増えるにしたがい、その効果は、全体としては薄れてくるのかもしれない。

最後に、「最初の一步」の受講経験別に考察する。人生キャリアについては、「最初の一步」受講 ($t(70) = -2.704, p < .01$) と非受講 ($t(46) = -2.769, p < .01$) に関係なく有意な差が観察された。一方、職業キャリアについては「最初の一步」非受講グループ ($t(49) = -2.498, p < .05$) の平均値の差は有意であった。「松大生最初の一步」プログラムの大きな目的は、仲間づくりであり、それを参加者自身がグループで課題解決をしていくことで、主体的に自分と他人の理解を進めていくよう構成されている。直後にこうした「自己理解」を学生に促すことは、主体的に大学生活への意欲を引き出すものと期待されている。このように考えると、「最初の一步」受講生は自己理解深め、すでに思い描くキャリアがあるのかもしれない。

いずれにせよ、項目の詳細を検討し、全体として有意な差が観察された項

目、性別、受講回数別、「最初の一步」受講経験別でどのような特徴があるかを検討することで、その効果をより詳細に解釈できると考えられる。

3.3 人生キャリアの効果測定

3.3.1 人生キャリアの領域別分析

表12は人生キャリアについて、領域別に関する対応のある t 検定の結果を示している。全体について、すべての領域について有意な差が生じていることが表12から明らかである。

性別では、男（人生関心性： $t(85) = -2.488, p < .05$ 、人生計画性： $t(83) = -3.280, p < .01$ ）女（人生関心性： $t(36) = -2.369, p < .05$ 、人生計画性： $t(37) = -2.210, p < .05$ ）ともに人生自律性を除いた領域で有意な差があることがわかる。1年次生ということもあり、自律性については、男女ともに平均すると具体的な取り組み姿勢が変化するところまで至らないのかもしれない。

一方で、受講回数別に見るとやや特徴的である。受講回数が4回にもなると、どの領域においても平均値の差に有意性は観察されなかった。今回は、4回目のアンケートを採用して分析しているが、それまでの受講ですでに各領域の平均値が高くなっており、あるいは十分に各領域について考えるところがあり、差がでにくくなっていると予測できる⁶⁾。人生自律性については受講回数1回（ $t(60) = -2.338, p < .05$ ）のみ平均値の差は有意であったのに対して、人生計画性については受講回数1回（ $t(60) = -3.256, p < .05$ ）と2回（ $t(30) = -2.212, p < .05$ ）に有意な差が観察された。さらに、人生関心性については受講回数3回（ $t(22) = -2.139, p < .05$ ）でのみ有意な差が観察されている。社会人セミナーの人生キャリアについて受講回数の増加に関する効果として、最初に人生自律性、次に人生計画性、最後に人生関心性の順番で効果が現れていくのかもしれない⁷⁾。

6) 実際に受講回数が4回の場合、それぞれの事前の平均値は他の受講回数と比較するとやや高くなっている。特に計画性については顕著に高い。

表 12 人生キャリアにおける領域別平均値の差と標準偏差

		人生関心性		人生自律性		人生計画性	
		平均値の差	標準偏差	平均値の差	標準偏差	平均値の差	標準偏差
性別	全体	-1.85**	6.184	-1.14*	5.389	-1.71**	4.563
	男性	-1.77*	6.588	-1.07	5.628	-1.80**	5.022
	女性	-2.03*	5.204	-1.30	4.858	-1.50*	3.383
受講回数	1回	-1.20	6.401	-1.51*	5.039	-1.71**	4.039
	2回	-1.55	4.365	-.40	5.575	-2.19*	5.522
	3回	-3.48*	7.798	-1.78	6.715	-.826	4.448
	4回	-3.00	5.385	.56	2.877	-2.222	4.944
最初の一步	受講	-1.57*	5.955	-.70	5.716	-1.68**	5.716
	非受講	-2.27*	6.568	-1.80*	4.4835	-1.73**	3.785

** : $p < .01$, * : $p < .05$

「最初の一步」受講経験別について、人生キャリア全体でみると、いずれも有意な差が観察された。しかし、領域別にみるとその差は明らかである。「最初の一步」非受講者についてはすべての領域（人生関心性： $t(47) = -2.395$, $p < .05$, 人生自律性： $t(48) = -2.600$, $p < .05$, 人生計画性： $t(48) = -3.208$, $p < .05$)について有意な差が観察されているが、受講者（人生関心性： $t(74) = -2.288$, $p < .05$, 人生計画性： $t(72) = -2.854$, $p < .01$)については人生自律性で有意な差が観察されなかった。「最初の一步」では、グループのメンバーとグループワークを通じてお互いの意見を交換し合い、ときには意見をぶつけあいながら、様々な刺激を受ける。そして同時に、メンバーの意見を傾聴し、自己理解も深めていく。そういった中で、自律的な志向が醸成され、社会人セミナー前後で差が生じていないのかもしれない⁸⁾

7) この仮説の検証については、今後の課題である。

8) 受講回数1回のケースで、「最初の一步」非受講生について、人生自律性は $t(37) = -2.52$, $p < .05$ と有意な差があった。一方、「最初の一步」受講生について、人生自律性は $t(22)$, $n.s.$ であり、有意な差があるとは言えなかった。さらに、人生自律性について、有意な差が観察されたのは、「最初の一步」非受講生かつ受講回数1回の学生のみであった。

3.3.2 人生キャリアの項目別分析

本項では領域別分析よりも細かな個別項目別の分析を行う。個別項目別分析を行うことによって、性別、受講回数別、そして「最初の一步」受講経験別のより細かな差異を浮き彫りにする。項目については資料3を参照していただきたい。

表13は人生キャリアの個別項目についてまとめている。全体として受講前後で有意な差が観察された項目は2, 3, 4, 6, 7, 9, 10, 11, 18, 24, 25, 27である。特徴としては、計画性や関心性に属する項目が有意な差がある傾向にある点である。社会人の話を聞いて、これからの人生設計に関心を持ったり、充実した人生を送るための計画を立てようとしたりする効果が強く現れる傾向にあることが窺える。

2つ目の特徴として、逆転項目について有意な差はほとんど観察されなかった。社会人セミナーの効果として、いわゆるポジティブな項目については多くの項目で有意な差が観察されている。これは、いわゆるネガティブなものについては、なかなか改善せず長期的な観点からのプログラムが必要であると考えられる。

男女で有意な差が見られる項目に違いがある。もともとの点数がどうであったかは別として、男性の方が有意な差がある項目が多いのにはいくつかの理由が考えられるが、キャリアについてもともと男性の方が意識が薄く、社会人の話を聞いてこれからは自身のキャリア意識に強く働きかけた可能性がある。個別項目でみると、事前の調査では性差は観察されなかった。しかし、事後の個別項目でみると、項目3「どのような生き方が自分に向いているのか、真剣に考えたことがない。」で男性の方が有意に平均値が高くなっている。また、性別でみると有意な差は観察されなかったものの、女性のほうが有意に平均点が高かったのは項目26「いま希望している生き方は、またすぐ変わるかもしれない。」である。この項目は逆転項目として設定されている。この2点から、男性はそもそも自身のキャリアについて考えてこなかった可能性がある。女性

表 13 人生キャリア個別項目一覧表

項目	全体	性別		受講回数				最初の一步	
		男性	女性	1回	2回	3回	4回	受講	非受講
1									*
2	**	*	*		*	*		**	
3	**	*				*		*	
4	**	*	*						*
5									
6	**	**		*				*	*
7	**	**						*	
8 (R)									
9	**	**	*	**	*			**	**
10	**	**		*		*	*	**	
11	**	*			*		*	*	
12(R)									
13(R)									
14									
15									
16(R)								*	
17									
18	**	**		*				*	*
19(R)									
20									
21									
22(R)									
23(R)									
24	**	**		*	*			*	*
25	*				**				*
26(R)									
27	**	*			**				*

** : $p < .01$, * : $p < .05$, (R) は逆転項目を示している。

についてはまたすぐには変わるかもしれないと思わなくなってきた度合いが男性よりも高いということは、もともと希望している生き方を考えていた事を意味する。したがって、女性よりも男性の方が有意な差のある項目が多くなったと考えられる。

受講回数でみると、1回の場合には人生自律性や人生計画性の項目が有意な差が現れている。2回になると、人生自律性よりも人生計画性の項目が有意になり、人生関心性について有意な項目がやや増える。3回目、4回目ではむしろ人生関心性の項目のみ有意であり、人生自律性や人生計画性についての効果が弱まることがわかった。

「最初の一步」受講経験別で特徴的であったのは、人生関心性に関する項目についてである。人生自律性や人生計画性については比較的共通点が多かったが、人生関心性については共通して有意な差が観察された項目は1つもなかった。上述のとおり、「最初の一步」ではプログラムを通じて、傾聴力が高まっていく。傾聴するということは、その個人に関心をもつということにも繋がると思われ。それが、「最初の一步」受講生については関心性に関する項目が特に高まった理由であると考えられる。

3.4 職業キャリアの効果測定

3.4.1 職業キャリアの領域分析

次に職業キャリアの領域別分析を行う。表14は職業キャリアの領域別の効果をまとめている。全体として、職業計画性 ($t(123) = -3.102, p < .01$) については有意な差が観察されたが、職業関心性 ($t(122) = -1.444, n.s.$) や職業自律性 ($t(123) = -.986, n.s.$) に対して有効ではないことが窺える。これは、対象者が1年次生であり、働くことに関心を持ったり、どのように働きたいかを考えたりすることに意識が向いていないためである可能性がある。しかし、自身のキャリアを考える上で、働くことを意識することは非常に重要であるため、この2つの指標に効果的であるセミナー作りをしていくことが今後の

表 14 職業キャリアにおける領域別平均値の差と標準偏差

		職業関心性		職業自律性		職業計画性	
		平均値の差	標準偏差	平均値の差	標準偏差	平均値の差	標準偏差
性別	全体	-.72	5.496	-.57	6.374	-1.25**	4.488
	男性	-.72	6.036	-.80	7.127	-1.24*	4.861
	女性	-.70	4.041	.00	4.123	-1.28*	3.469
受講回数	1回	.67	6.010	-1.02	6.512	-1.11*	4.243
	2回	.10	3.691	-.10	6.764	-2.27*	4.806
	3回	-2.13	6.724	-.09	6.690	-.09	5.145
	4回	-.22	3.193	-.22	2.991	-1.67	3.000
最初の一步	受講	-.45	5.375	.03	6.149	-1.37*	4.928
	非受講	-1.10	5.701	-1.44	6.658	-1.08*	3.784

** : $p < .01$, * : $p < .05$

課題である。

この傾向については、性別、受講回数別、そして「最初の一步」受講経験別で変わりはない。特に受講回数別に着目すると、受講回数が1回 ($t(62) = -2.078, p < .05$) および2回 ($t(29) = -2.583, p < .05$) の場合は職業計画性に有意な差が観察される。しかし、受講回数が3回以上では有意な差が観察されない。受講回数を重ねることで、職業計画性についてもその意識はより浸透したと考えて良いのだろう⁹⁾。

近年、キャリア教育の重要性が盛んに謳われているが、大学に入学して1年に満たない学生に対して、効果的なキャリア教育、特に働くことについてのキャリア教育はプログラムを綿密に考えないと効果が薄いことが言えるのかもしれない。働くとはどういうことなのか、また職業選択はなぜ重要なのかなどを伝えるような一連のプログラムの開発の重要性が浮き彫りになったといえよう。

9) ただし、受講のタイミングやどのくらいの間隔が開いていたかについては、ここでは考慮していない。場合によっては、受講の間隔、時期によって効果に差が出てくる可能性がある。

3.4.2 職業キャリアの項目別分析

職業キャリアの個別項目については、人生キャリアと同様に職業計画性について有意な差が観察される項目が多いことと、逆転項目についてはほとんど有意な差が観察されなかったことが特徴として挙げられる。

性別でみると、職業キャリアの個別項目では、人生キャリアの個別項目ほど大きな差は観られなかった。しかし、注目に値する差が存在する。男性は希望する職業に就くための準備をしようとするより考えるようになった一方で、女性はこれからどのような職業につくししっかり考え、自主的に就職活動を進めるように意識するようになった点である。男性はすでに就きたい職業がイメージ出来ている一方で、女性はこれから就きたい職業をしっかり考えるという点は大きな差である。男性の場合は、公務員や銀行という業種が念頭にある可能性が高い。熊谷・西尾（2011）の調査では、大学1年次生・2年次生について、公務員・団体職員になりたい割合は約半数、銀行は約33%にも達している。女性については、男性ほど高い割合は観察されていない。このことから、計画を立てようという影響を受けたことはポジティブに捉えたいが、その職業が何かについてまでも考慮すると、もう少し視野を広げるようなプログラムが必要であろう。

職業キャリアの個別項目について、受講回数1回と2回ではその効果に差はなかった。受講回数が3回になると、職業キャリア関心性に関する項目に有意な差が見られるようになる。しかし、職業キャリアについては、受講回数を重ねるほどその効果は薄れていくことがわかる。

「最初の一步」の受講経験の有無について、非受講者については、どちらかと言うと関心を持ったり検討をしている段階の項目に有意な差が観られる。一方、「最初の一步」受講者については、自主的に進められるやすでに勉強を始めるといった項目が有意になっているように、高い自主性が観察される。

表 15 職業キャリア個別項目一覧表

項目	全体	性別		受講回数				最初の一步	
		男性	女性	1回	2回	3回	4回	受講	非受講
1									*
2									
3									
4									
5								*	
6									
7	*		*						
8 (R)									
9									
10						*		*	
11	**	**	*	*	**	*		**	*
12(R)									
13	**	**		**	**			**	
14									
15									
16(R)									
17	*	*							
18	**	**	**	*	**		**	*	
19(R)									
20									
21									
22									*
23(R)									
24								*	
25	**	**	*	**	**			**	*
26(R)						*			
27(R)									

** : $p < .01$, * : $p < .05$, (R) は逆転項目を示している。

4 お わ り に

本稿では、経済学部1年次生の一般基礎演習のうち、希望クラスが参加している社会人セミナーについての効果分析を行った。効果分析を行うにあたり、坂柳（1996）によって開発されたキャリア・レディネス尺度を用いた。

おおむね、効果がある結果が得られたが、幾つかの課題も発見された。まず、人生キャリアについては特に効果的であるが、職業キャリアについてはその効果は薄いという点である。社会人の話を聞き、多様なキャリアパスがあることを実感してもらうことが主たる目的であるため、大きな目的は果たしているといえる。しかし、近年職業に対する意識を持ったキャリア教育の必要性が叫ばれており、その要望に応える位置づけとして本プログラムを実施している側面もあるが、この点については期待される効果は現れていない。2点目はデータベースの作成についてである。全体としての効果はおおむね現れていると判断できるが、各社会人が異なる話をし、それを聞く学生の感じ方は異なる。しかし、今回はその差を考慮することなく一括して分析を行っているため、個別講師ごとの分析は今後課題となる。また、受講回数を重ねている学生についても、事前調査と最終事後調査の差を測ることでその効果を浮き彫りにしようとしている。しかしながら、受講回数を重ねるに当たり、その効果としてどのようなプロセスを通じてきたのかを知ることは重要である。この分析ができることによって、どの領域に効果が出やすく、また別の領域については、何回くらい受講しないと効果が出にくいといったことが明らかになるだろう。以上の点が今後の課題である。

参 考 文 献

- 坂柳恒夫（1996）“大学生のキャリア成熟に関する研究－キャリア・レディネス尺度（CRS）の信頼性と妥当性－”，愛知教育大学教科教育センター研究報告，No. 20，9-18.
- 熊谷太郎・西尾圭一郎「松山大学の文系学生の就職意識に関する調査(2)」松山大学論集第23巻第5号，pp. 27-52，2011年12月
- 熊谷太郎・松井名津・安田俊一「学生生活への意欲を高める導入教育の実践」初年次教育学会第3回大会（於：高千穂大学），2010年9月
- 同「オリエンテーションプログラム効果の検証」初年次教育学会第5回大会（於：文京学院大学），2012年9月
- 松井名津・岩村樹憲・熊谷太郎・安田俊一「松山大学経済学部1年生における『自己の探求』プログラムの効果測定(1)」松山大学論集第26巻第3号，pp. 49-63，2014年8月
- 熊谷太郎・松井名津・安田俊一「松山大学経済学部新入生プログラムの効果測定－自尊感情への影響を中心に」松山大学論集第27巻第1号，pp. 18-33，2015年4月

資料1 講師プロフィールシート

《松山大学社会人セミナー》

2014年度後期「社会人セミナー」の講師プロフィールです。この用紙はセミナー当日必ず持参してください。

①講師はどのような人なのか、プロフィールシートを読んで想像しよう。(どのような考えの持ち主か、どのような人生を歩んできたのか、なぜそのような行動をしたのか、あなたと類似点・相違点はあるか など)

②リサーチ情報にアクセスしよう。(キーワードを理解する。キーワードに関連する情報を、図書館やインターネットで調べる。ホームページで仕事内容を調べる。参考書籍を読む など)

■セミナー日 11月 xx日 (金) 3限

■社会人講師 ○○さん (NPO 法人 △△)

プロフィール・仕事内容

○○市出身。○○大学卒業後、ファッションビル運営会社で約7年勤務。オーストラリアに約1年滞在、帰国後間もなく結婚、出産。約11年専業主婦としての日々を送る。

子どもが小学生になり手がかからなくなったのを機に再就職を模索。職業訓練校で社会人としての基礎力をブラッシュアップした後、現在の職場に就職。

女性活躍推進(ポジティブアクション)事業で県内の中小企業を中心に訪問している。

セミナーで伝えたいこと

- ・ 希望の企業に就職できたからと言って、希望の部署・仕事につけるとは限らない。
- ・ 「ライフプラン」と「キャリアプラン」を持っていますか。
- ・ キャリアとは、仕事だけではなく、経験すべて。結婚も出産も子育てもキャリア。
- ・ 「仕事か家庭か」ではなく、「仕事も家庭も子育ても」
- ・ 多様な生き方、多様な働き方があるということ。

事前リサーチ情報

【キーワード】

「M字カーブ」 「女性活躍推進(ポジティブアクション)」

【参考URL、書籍】

- ・ NPO法人△△のHP <http://xxx.com/>
- ・ ポジティブアクション(女性活躍推進)のHP <http://www.positiveaction.jp/>
- ・ えひめ男女共同参画のためロールモデル
http://www.pref.ehime.jp/h15200/rolemodel/hotta_mana.html
- ・ 内閣府男女共同参画白書平成25年版 <http://urx.nu/cyo3>

【パンフレット】

NPO 法人△△の案内チラシ

20歳前後の自分は…

何になりたいという目標のないまま大学へ進学。親の進めるまま教育学部に入ったが、時代背景もあり、公務員よりも民間企業に魅力を感じ、自分の興味があったアパレル企業への就職を目指し就職活動を行う。たくさん不採用通知をもらいながらも就職活動を大いに楽しんだ。希望の職場に就職できたが、希望とは違う事務という仕事についた。数年後、販売促進部署への希望を出し受理される。

「社会人セミナー」事前調査

年 月 日

[A] 以下の各項目に対して、5は「よくあてはまる」、4は「ややあてはまる」、3は「どちらとも言えない」、2は「あまりあてはまらない」、1は「全くあてはまらない」とし、該当すると思うところに○印をつけてください。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. これからの人生や生き方について、とても関心を持っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 希望する人生を送るにはどうすればよいか、調べたことがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. どのような生き方が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. これからの人生は、自分の力で切り開いていくことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. どんな生き方をしていけばよいかは、最終的には自分自身の責任で決める。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 希望する人生を送れるように、日頃から自分を向上させるように心がけている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 希望する行き方を送るための具体的な計画を立てている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. どのような生き方をしたいか、まだわからない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 充実した人生を送るための計画に沿って、すでに取り組んでいることがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読んだことがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 自分はなんのために生きて行くのか、真剣に考えたことがない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 人生をどう過ごすかは、他の人が考え始めることに、自分も考えればよい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

14. これからの人生は、自分で責任を自覚して送ろうと思う。 1 2 3 4 5
-
15. 今後の人生で困難なことに突き当たっても、自分なりに克服していこうと思う。 1 2 3 4 5
-
16. 自分は将来どのような人生を送っているか、わからない。 1 2 3 4 5
-
17. これから先どのような人間になりたいのか、自分なりの目標を持っている。 1 2 3 4 5
-
18. これからの人生設計は、自分の個性と社会状況の両面から十分考えている。 1 2 3 4 5
-
19. 人生設計や生き方にあまり関心がない。 1 2 3 4 5
-
20. 今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるようにしている。 1 2 3 4 5
-
21. 将来の生き方は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。 1 2 3 4 5
-
22. これからの人生をどう過ごすかは、周囲の雰囲気に合わせて決めようと思う。 1 2 3 4 5
-
23. まだしばらくの間は、責任のある生活はしたくない。 1 2 3 4 5
-
24. 人生を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする。 1 2 3 4 5
-
25. 自分の今後の人生は、だいたい想像できる。 1 2 3 4 5
-
26. 今希望している生き方は、またすぐに変わるかもしれない。 1 2 3 4 5
-
27. 今希望している人生や生き方は、自分なりに実現できそうだと思う。 1 2 3 4 5
-

【B】以下の各項目に対して、5は「よくあてはまる」、4は「ややあてはまる」、3は「どちらとも言えない」、2は「あまりあてはまらない」、1は「全くあてはまらない」とし、該当すると思うところに○印をつけてください。

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1. 将来の職業や就職について、とても関心を持っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 希望する職業につくにはどうすればよいか、調べたことがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. どのような職業が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 職業人になったら、自分から進んで積極的に仕事を行おうと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 充実した職業生活を送れないのは、自分自身の責任が大きいと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 職場で難しい問題にぶつかっても、自分なりに克服していこうと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 希望する職業につくための具体的な計画を立てている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. どのような職業に就きたいか、まだわからない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 職業選択や就職は、自分の個性と就職機会の両面から十分考えている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 職業や就職に関する記事には、よく目を通すようにしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 将来の職業や就職先について、いろいろ比較し検討している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 自分はなんのために働くのか、真剣に考えたことがない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 就職の準備は、他の人から言われなくても自主的に進めることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. 職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. 職業生活を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 16.自分は将来どのような職業についているか分からない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17.どのような職業人になりたいのか、自分なりの目標を持っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18.すでに計画に従って就職試験のための勉強をしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19.将来の職業生活をどう過ごすかは、あまり関心がない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20.将来、充実した職業生活を送るために参考となる話は、注意して聞いている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21.職業選択や就職は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22.職業の選択・決定では周囲の雰囲気流されることはない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23.職業人になっても、責任の重い仕事はやりたくない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24.職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25.自分の将来の職業生活の様子は、だいたい想像できる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 26.今希望している職業は、またすぐ変わるかもしれない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 27.付きたい職業は決めたが、それに向けての積極的な努力は特にしていない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

【C】 あなた自身についてお聞かせください**問1 性別**

1. 男性 2. 女性

問2 出身地

1. 愛媛県 東予地方 2. 愛媛県 中予地方 3. 愛媛県 南予地方
-
4. 愛媛県外 (県) 5. 留学生 (出身国:)

問3 現在の居住

1. 実家 2. ひとり暮らし 3. その他 ()

問4 所属ゼミ名 ()**問5 学籍番号**

--	--	--	--	--	--	--	--

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。